

平成 29 年度県原子力防災訓練の結果について

1 原子力防災訓練実施結果検討会（H30. 2. 15）で出された主な意見

(1) 訓練想定, 内容など

- ・ 今年度は, 訓練開始時間を昨年度より 30 分早めて, 警戒事態での対応（要配慮者の避難準備や実動組織の派遣要請など）にも取り組んだが, 発災直後の訓練（災対本部の立ち上げ, サイト内の情報収集など）も取り入れるなど, 更に重点的に初動対応訓練をすべきではないか。
- ・ 訓練を 1 日で実施することで, 事態の進展の経過を省略した訓練内容になっている（P A Z 住民の避難中に U P Z の一時移転が始まるなど）。他県では 2 日間の訓練実施もあるため, 鹿児島県も検討してよいのではないか。
- ・ 小学生から高校生の訓練参加の検討が必要ではないか。
- ・ 平成 27 年度以降, 冬の時期に訓練を行っているが, 違う時期に訓練を実施し, 課題等を把握すべきではないか。
- ・ 今年度は, 薩摩半島西方沖で最大震度 7 という想定であったが, 関係市町ごとの想定震度等が漠然としており, 各地域で行う訓練内容の検討に苦慮した。

(2) 広報

- ・ 事態発生後の住民への迅速な広報が必要ではないか。
- ・ 今回は, 事前に訓練を実施する旨の周知を行っていたが, 訓練当日の広報が, 訓練広報であることがうまく伝わらなかったため, 広報文を見直すなど, 訓練であることをしっかり伝えるべき。

(3) オフサイトセンター運営

- ・ 国, 県, 市町村間の情報連絡体制や訓練における自分の役割等に関する理解が進んでいない場面がみられたことから, 訓練前のプレ訓練を行うなど, 情報連絡体制や各機能班の役割等を理解した上で訓練に臨む体制構築が必要ではないか。
- ・ オフサイトセンターの実動対処班は, 県からの要請を受けて, 自衛隊等の対応機関を調整する業務を行うが, 実動に合わせた対応訓練を

実施しているため、事前に対応機関が決められているなど、実践的な訓練が不足しているように感じた。

実動訓練とは別に図上訓練を実施するなどして、他班との調整や、起きた事象にどう対応するかなど、より実践的な訓練に取り組むべきではないか。

- ・ 県現地災害対策本部において、住民の避難状況などを把握する担当が不明確だったので、県地域防災計画に位置付けるべきではないか。
- ・ 実災害時には、長期間にわたる対応が必要になる可能性があることから、オフサイトセンターの参集者名簿は、交代制を前提としたものとすべきではないか。

(4) 避難

- ・ 避難訓練では、市が準備したマスクを未着用者に配布したが、参加者に対し手袋、帽子、マスク等の準備・着用を呼びかける必要がある。
- ・ バスの要請、出動指示等の流れや役割分担を明確にする必要があるのではないか。
- ・ 保育園においては、市役所や保護者との情報連絡訓練や園児の保護者への引き渡し訓練を実施したが、市役所や保護者との情報連絡がしっかり伝わるのかが課題であり、万が一の通信手段の確保も必要ではないか。
保護者への引き渡し訓練については、来年度以降も、引き続き実施してほしい。

(5) 避難所の受入・運営

- ・ 避難元と避難先の市町の連携について、さらなる習熟が必要である。
- ・ 県、関係市町における避難所運営に関する意見交換の場が必要ではないか。
- ・ 情報伝達事項（避難者数、避難方法、連絡等の必要事項）を事前に設定しておく必要がある。
- ・ 避難所の受入可否を判断するために必要な情報（避難者数、車両台数等）については、正確な伝達が必要である。

(6) 避難退域時検査

- 複数の汚染箇所を想定した検査が必要ではないか。
- 簡易除染後の確認検査で汚染（放射性物質）が残っている場合の流れについても確認してよいのではないか。
- 検査の待合時間における住民への積極的な声かけや質問への回答など不安を解消するための工夫が必要ではないか。

(7) 被ばく傷病者対応

- 傷病者1名への対応だけでなく、複数の傷病者への対応手順の想定も必要ではないか。

(8) 安定ヨウ素剤の配布

- UPZの安定ヨウ素剤緊急配布については、引き続き、県・関係市町で協議の上、配布方針等の整理を行うべき。

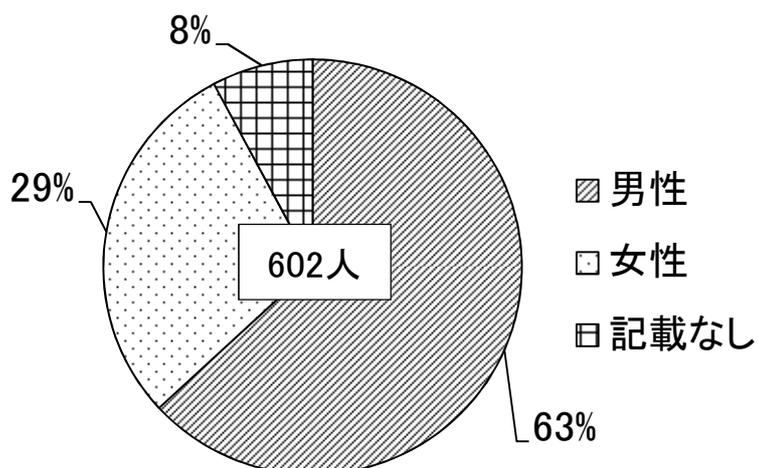
(9) 緊急時モニタリング

- 訓練の想定上、発電施設から放射性物質放出・停止の時間がスキップされていたが、当該事象時のモニタリング活動訓練も実施すべきではないか。

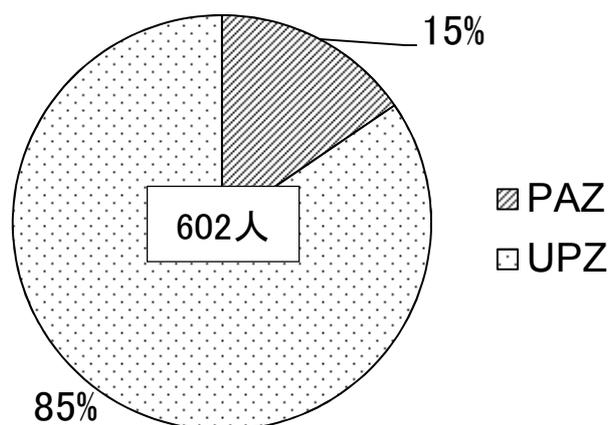
2 原子力防災訓練 住民アンケート結果

○ アンケート回答者数：602人

性別

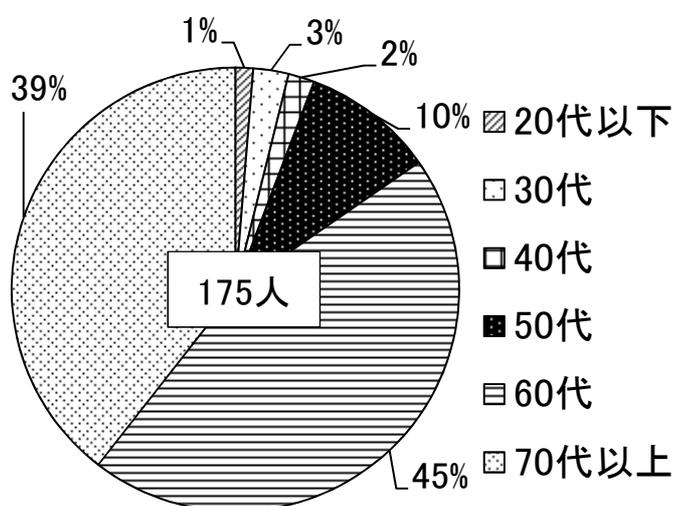
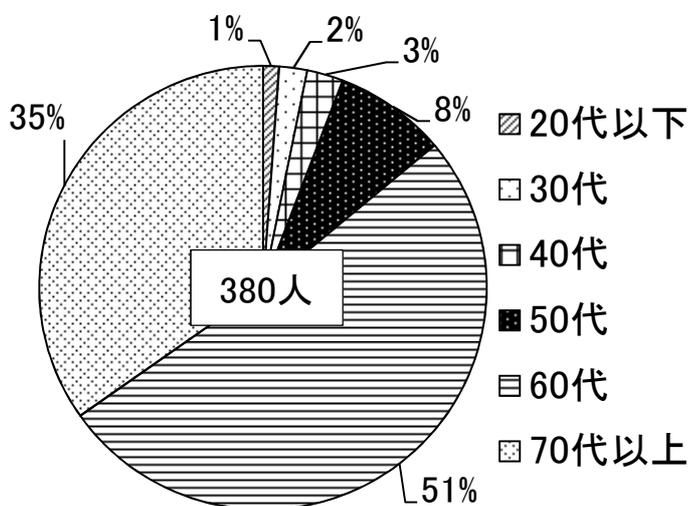


PAZ及びUPZ参加者の割合

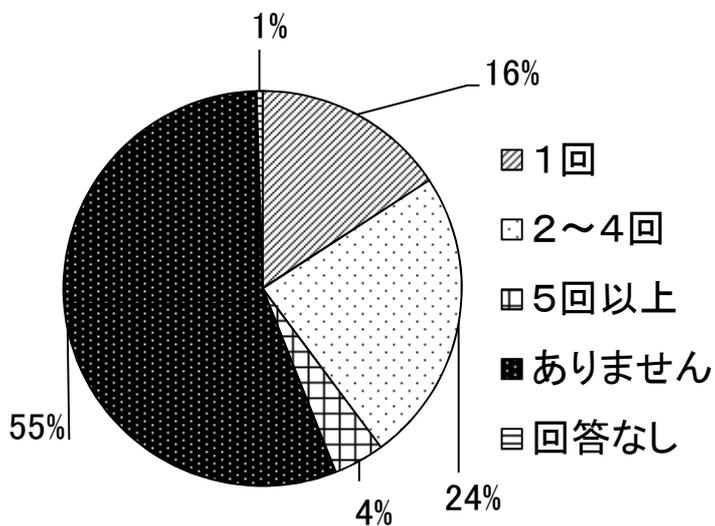


年齢層

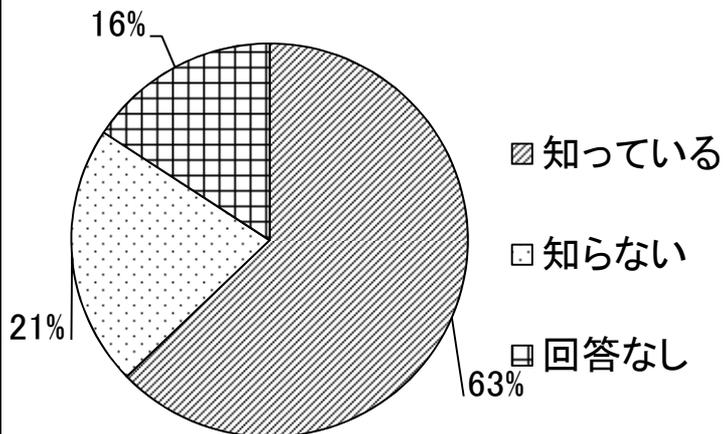
<男性・女性の年齢層：計602人>
(うち47名は性別未記載)



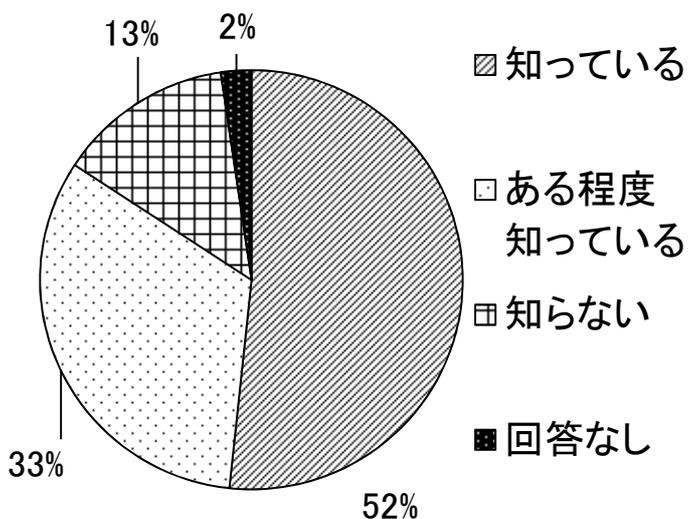
Q 1 : これまでに原子力防災訓練に参加したことがありますか？



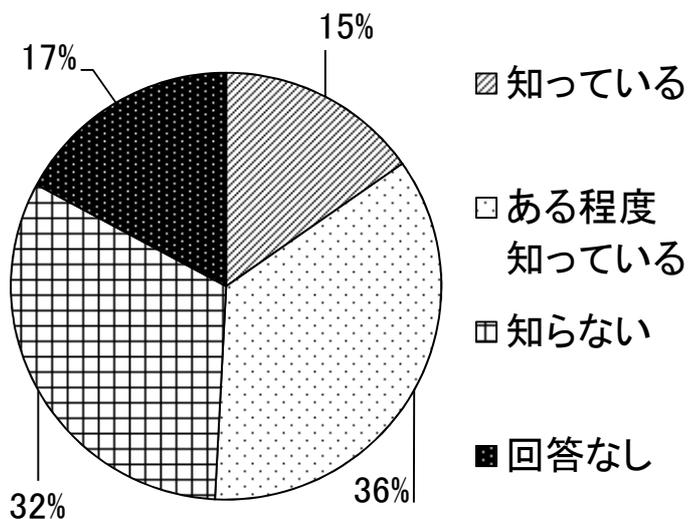
Q 2 : あなたのお住まいの地域の避難計画を知っていますか？



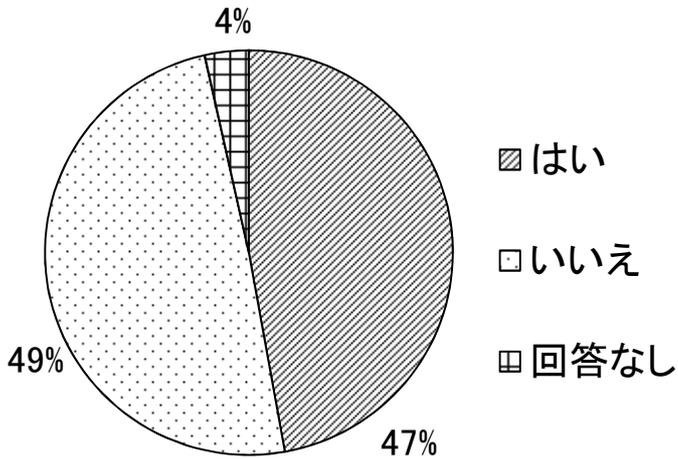
Q 3 : 原子力災害時、あなたの避難方法(避難所・避難先・避難ルート等)を知っていますか？



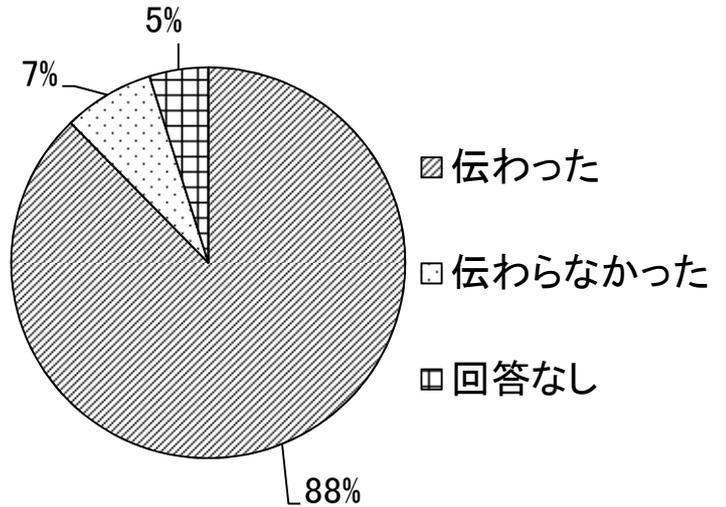
Q 4 : あなたのお住まいの地域では、いつ、どのように防護措置を行うか知っていますか？



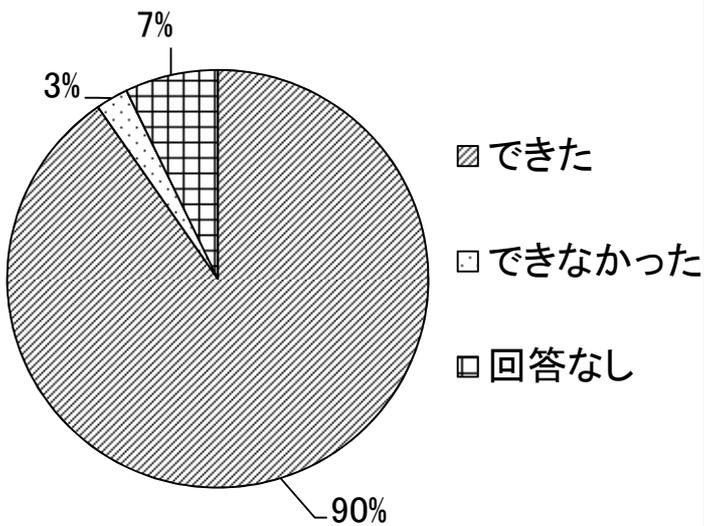
Q 5 : お住まいの地域の最寄りに設置されたモニタリングポストのことを知っていますか？



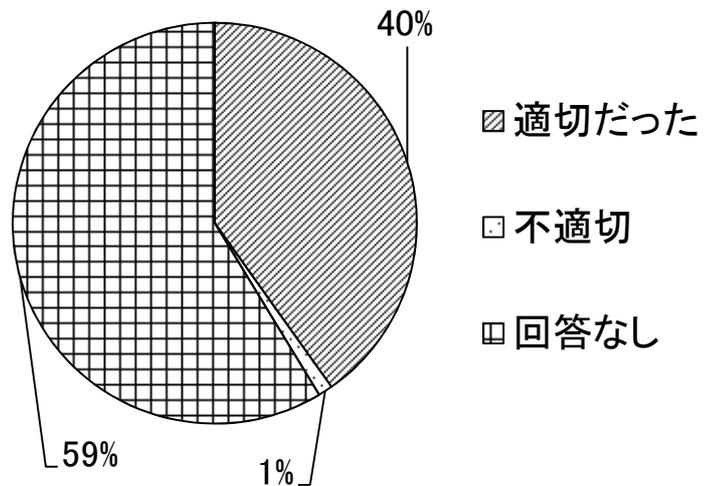
Q 6 : 住民広報(発電所の情報, 避難指示など)は伝わりましたか？



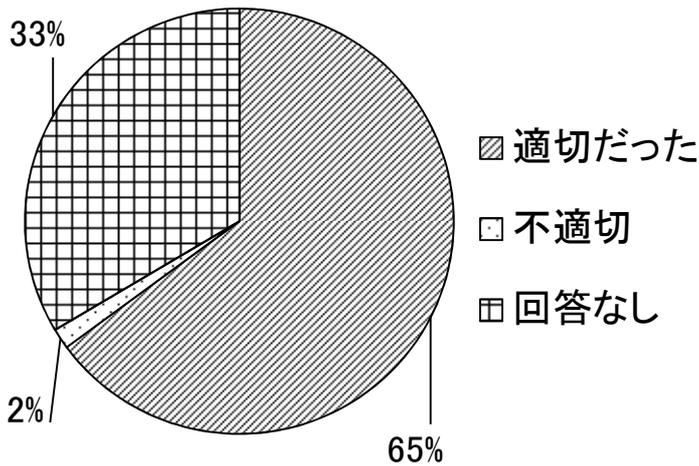
Q 7 : 避難はスムーズにできましたか？



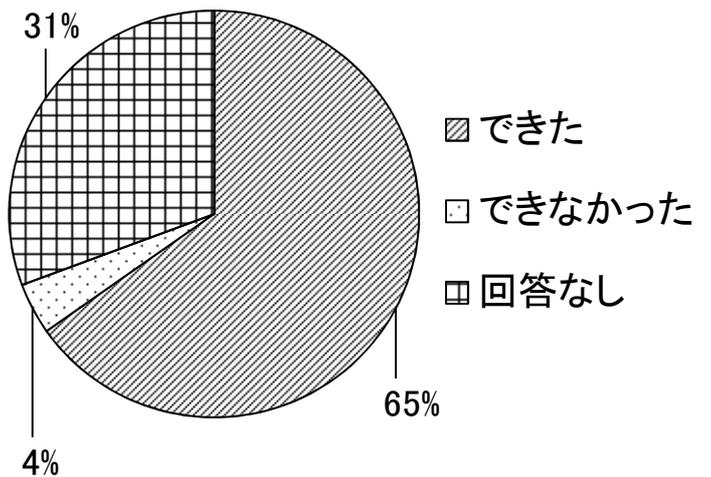
Q 8 : 安定ヨウ素剤の配布は適切でしたか？
(職員の対応を含む)



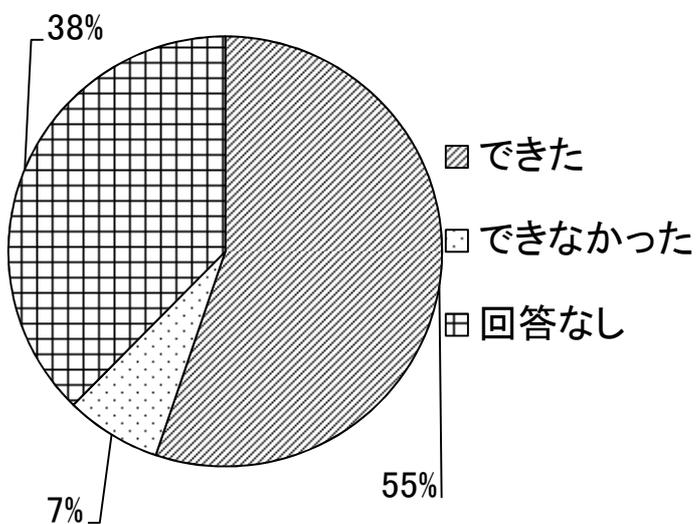
Q 9 : 避難所の運営は適切でしたか？（職員の対応含む）



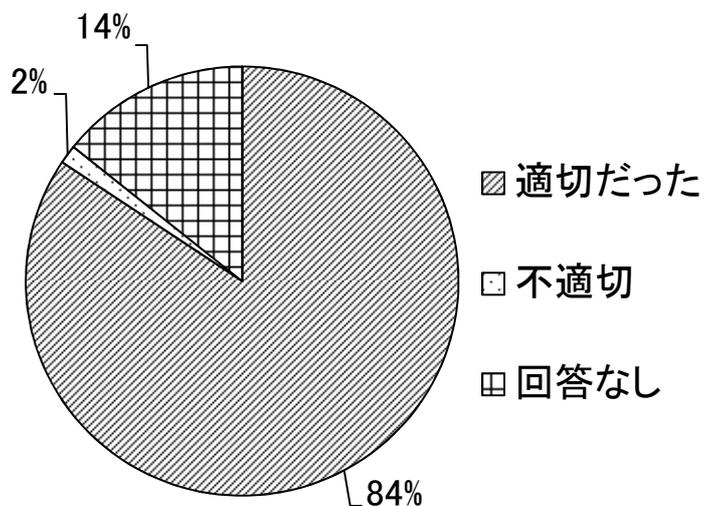
Q10 : 自宅での屋内退避はできましたか？



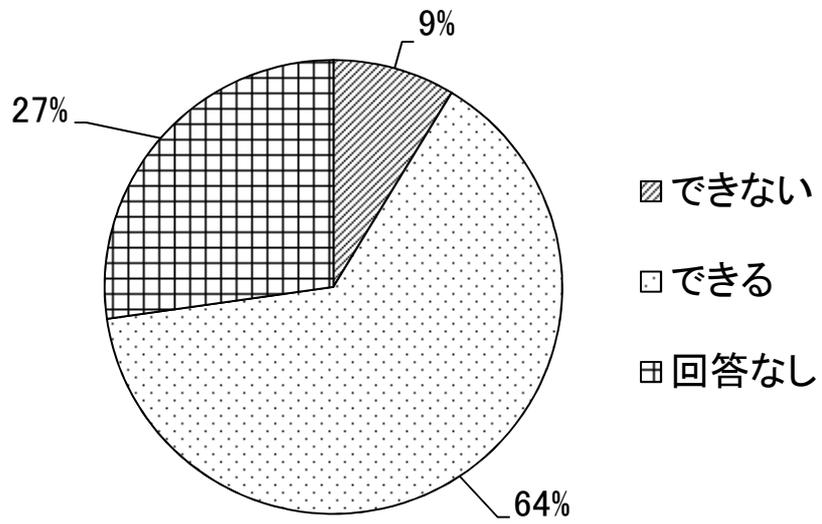
Q11 : 熊本地震による家屋倒壊等を想定した、避難所等での屋内退避はできましたか？



Q12 : 避難退域時検査の運営は適切でしたか？（職員の対応含む）



Q13 : 今回の訓練を体験して避難できると感じましたか？



主な自由意見

1 今後の訓練について

- ・ 地域内には避難経路が分からない人もいると思うので、これまで訓練に参加していない人に参加してほしい。

2 広報・情報伝達

- ・ 避難用バスの中にも情報を伝えてほしい。
- ・ 防災行政無線を聞く余裕があるのか、広報車での広報が十分かなど地域住民へ連絡が行き届くか心配。
- ・ 集合場所などで職員の説明が聞き取りにくかった。拡声器などの活用も検討してほしい。

3 避難方法、避難経路等

- ・ 高速道路の利用により、バスでの避難がスムーズに行えた。
- ・ 決められた避難ルートが通れない場合における対応が必要ではないか。
- ・ 実災害時にスムーズに避難できるのか。パニックにならない対策が重要ではないか。
- ・ 避難経路が交通渋滞となった場合や、複合災害で使用できなくなった場合の避難が心配。
- ・ 要配慮者はスムーズに避難できるか、要配慮者に対する支援が可能か。
- ・ 避難用バスに乗るまでの体力に不安がある。

4 避難所、避難受入

- ・ 実災害時の避難場所への避難訓練でないと意味がないのではないか。受入側の訓練もしてほしい。
- ・ 避難所での案内が不足していた。
- ・ 避難場所を確認できて良かった。
- ・ 簡易トイレ、パーテーション、段ボールベッドなどを実際に見ることができて良かった。また、防災講習会があつて良かった。

5 安定ヨウ素剤

- ・ 安定ヨウ素剤の説明が不足していた。

6 その他

- ・ 夜間に災害が発生した時の対応はどうか。
- ・ 公民館単位で自主防災組織を充実させる必要がある。
- ・ 訓練に参加して、防災意識が高くなった。